

広報

# 中部の<sup>もり</sup>森林



私の森語り木のめくもりを感じる中津川市ひと・まちテラス！  
中津川市ひと・まちテラス所長 安藤 嘉之

写真：タマゴタケ(中信署管内)

各地からの便り

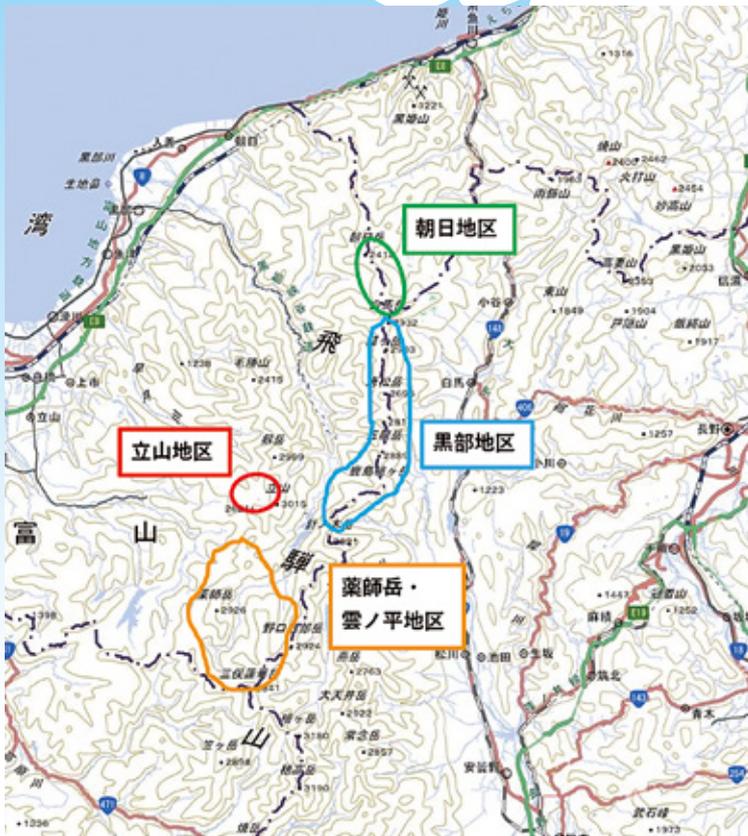
- ・グリーンパトロール活動 (ほか)
- シリーズ
- ・森林官からの便り、私の森語り、中部の保護林、秘蔵写真・今は昔の林業



2024/No.246



林野庁中部森林管理局



出典：国土地理院ウェブサイト（電子国土Web）  
<https://maps.gsi.go.jp/#10/36.602299/137.744522/&base=std&ls=std&disp=1&vs=c0g1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f1>  
 上記地図上にパトロールの地区を示した

パトロールを実施した4地区

**高山植物等保護パトロール活動**  
 ～半世紀を超えて～

【富山森林管理署】

昭和四十七年から始まり、今年で五十二年目を迎えた高山植物等保護パトロール（通称・グリーンパトロール）を実施しました。

本パトロールは、地元自治体や山小屋関係者等で構成される国有林野保護管理協議会が実施し、当

署は事務局を担当しています。

活動の場所は四地区に分かれ、立山地区（室堂平周辺）では七月十八日から八月十六日までの約一ヶ月間、薬師岳・雲ノ平地区（五色ヶ原・太郎平・雲ノ平・鷲羽岳・野口五郎岳）、黒部地区（針ノ木岳・爺ヶ岳・五竜岳・唐松岳・白馬岳）及び朝日地区（朝日岳・雪倉岳・白馬岳）では七月十八日から八月九日までの約二十



ゴミ拾いをするパトロール員

日間にわたり活動を行いました（上図を参照）。

本年度は、ライチョウや高山植物に興味を持ち、豊かな自然環境を守りたいという十三名を雇用し、高山植物等の保護を呼びかける啓発活動や山岳美化活動を行いました。

パトロールの最終日には各地区で解団式を行い、パトロール員か



やりがだけ 白馬鐘ヶ岳と白馬岳

ら活動報告が行われました。インバウンドの増加による言語やマナーの違い、ストックキャップ未装着等の問題が挙げられる一方、登山客から「いつも綺麗にしてくれてありがとう」と感謝の言葉を掛けられ嬉しく感じたこと、様々な報告がされました。

今後も、この素晴らしい環境を後世に残すために本パトロールを継続してまいります。



松本山雅FC後援会が環境美化活動に参加

『乗鞍ライチョウルートの日イベント二〇二四』による清掃活動

【飛騨森林管理署】

八月一日に、乗鞍岳<sup>のりくらだけ</sup>の統一的なプロモーションを検討するプロジェクトチーム「乗鞍岳Beyond Border Project Team」が主催し、『乗鞍ライチョウルートの日イベント二〇二四』が、岐阜県高山市や長野県松本市、地元サツカー

チーム松本山雅FC後援会等の協力により乗鞍岳<sup>たなみだいら</sup>畳平で開催されました。

乗鞍岳は、長野・岐阜両県にまたがる中部山岳国立公園南部に位置し、長野県側の「乗鞍エコーライン」と、岐阜県側の「乗鞍スカイライン」の二つのマイカー規制道路が山頂でつながり、双方から山岳景観や自然を楽しむことができます。

「乗鞍ライチョウルート」は、乗鞍岳への誇りと未来への想いをライチョウに込め、両県をつなぐ観光ルートの愛称として、令和三年八月一日に発表されました。

当日のイベントでは、自然観察教室やライチョウ探索、関係者による森林パトロールが行われ、登山者等へ「乗鞍岳の自然」「ライチョウ保護」等についてPR活動が行われました。また、地元サツカーチーム松本山雅FC後援会による環境美化活動も行われ、当署職員も参加しました。

継続的に行われている美化活動、グリーン・サポート・スタッフ等による森林保護活動やマナー



細かいゴミも見逃さない参加者

の啓発などにより、大きなゴミや悪質なゴミの投棄はありませんでした。しかし、風が吹いて飛散したアメの包み紙やパンフレットなどがあり、環境美化活動の参加者は細かいゴミにも目を光らせていました。

乗鞍岳周辺は、登山やライチョウ観察、高山植物などの自然観察やサイクリング等で年間約三十九万人の観光客が訪れます。多くの人が訪れる中で、美しい自然が維

〈乗鞍スカイラインの通行が再開しました〉

令和4年に道路が崩落して通行止めとなっていた岐阜県側の乗鞍スカイラインは、仮設道路が完成し、8月20日から片側の交互通行が再開しました。今シーズンの通行期間は10月31日までの予定とされています。気象状況により終了が早まる場合がありますので、現地へ向かう際には、最新の情報をご確認ください。

持され、あわせて、ライチョウの保護が継続されているのは、地域や関係者等が一体となった森林・自然保護活動、自然景観や動植物を保護するためのマイカー規制、長年にわたる美化活動や啓発活動等の取り組みによるものです。標高三、〇二六メートルの剣ヶ峰登山や北アルプス北部・八ヶ岳・中央アルプスの眺望、ライチョウ観察、高山植物など自然を満喫できる乗鞍岳へぜひお越しください。

猛暑のなか高瀬溪谷フェスティバルが開催されました

【中信森林管理署】

七月二十日、長野県大町市のおおまち町ダムで、「森と湖に親しむ旬間実行委員会」の主催により、今年で三十五回目を迎える「高瀬溪谷フェスティバル二〇二四」が開催され、当署から木工クラフトのブースを出展しました。

当日は、梅雨明け直後の、焼けるような日差しの中、親子を中心に百名近くの参加があり、轟音を



木工クラフトブースの様子



作品作りに没頭する参加者

たてて高瀬川に流れ込むダムの放水を横目に、参加者も職員も大汗をかきながら、木工クラフトにチャレンジしました。参加者は、最初に大小のコースターを選び、どんぐりやヒノキの球果、クルミの殻、帽子のような御椀型のクヌギの殻斗、ビーズなどを自由に並べ、コースターの上に独創的な世界を作り上げていきます。

当署のブースは、最後まで人が途切れることなく、「夏休みの自由工作の宿題ができた」と喜ぶ子や、終了時間ギリギリまで取り組んで、「最初にこのブースに来れば良かった！」と悔しがると子など様々で、大盛況のうちに終了しました。

令和六年度 教職員森林・林業学習会の開催

【木曾森林ふれあい推進センター】

八月六日、長野県木祖村小木曾の国営林の水木沢天然林において、木曾郡内小中学校の教職員五名を対象とした森林・林業学習会を開催しました。

本学習会は、森林・林業の役割と森林環境教育の認識を高め、学校教育の場に活かしていただくことを目的として、平成十四年度から長野県との共催により実施しています。

今年度は木曾川源流の一つである水木沢天然林の散策とネイチャーゲーム体験、木曾町にある旧帝室林野局木曾支局庁舎（通称「御料館」）の見学を行いました。

水木沢では「原始の森コース」を巡り、天を突く大サワラ、ブナと木曾五木の混交林等、木曾独自の豊かな森林を「フィールドビンゴ」を行いながら散策しました。散策後は、視覚以外の感覚で自然を体感するネイチャーゲーム「目かくしイモ虫」を行い、樹木の皮や土

壤の感覚など普段は意識していない「自然への気づき」を体感してもらいました。

昭和二年に建築された御料館は、アール・デコ様式の意匠が見どころで、クラシカルな雰囲気味わいながら、貴重な林野行政資料等の展示スペースを見学しました。

参加者からは「理科の授業の導入としてフィールドビンゴは取り入れられそう」等の感想がありました。

教職員のみなさまに、学校教育の場で活かしていただけられるよう来年度以降も学習会を開催してまいります。



目かくしで樹を触る参加者

なかつがわ山の日サンデー  
〜中津川の山・木を体験〜

【東濃森林管理署】

八月四日、東濃森林管理署前広場をメイン会場とした「なかつがわ山の日サンデー」が開催されました。

この催しは、「中津川の山で育った木に触れ、木を知り、木を使える人になろう」をテーマに中津川市、恵那農林事務所、当署が主催となり、市内外の森林・林業に携



ミニ椅子作りに参加する親子

わる団体等の協力を得て行っている行事で、今年で七回目を迎えました。

当日は、数十年に一度と言われる酷暑の中にもかかわらず、多くの方が朝から列をなし、メイン会場十一ブース、サテライト会場四ブースで様々な体験に参加しました。

当署は、メイン会場の一ブースで、毎年多くの方が訪れる「ミニ椅子作り」、サテライト会場の一ブースで、七月に完成した「初代大ヒノキ歩道」を使ったツアーを行いました。

ミニ椅子作りは、整理券があったという間になくなる程の盛況ぶりです、対応にあたった職員は、開会直後から閉会間際まで子供たちへのお手伝いでフル稼働でした。

参加者からは「昨年体験した時に楽しくて、今年も参加しました」という嬉しいお言葉もあり、職員のサポートにも一層力が入りました。

初代大ヒノキツアーには、中津川市内はもとより、遠方では富山から参加された方もありました。



初代大ヒノキツアーの参加者

参加者からは「大変なコースだったけど、素晴らしいものが見られて良かった」「次の企画はないの？」「普段は何気なく見ている山も、それぞれに見方を変えれば新しい発見がある」といった感想が寄せられました。

今回は、東濃森林管理署の横に完成した「ぎふ木遊館サテライト」のオープニングイベントに合わせ、例年より一週間早めての開催でしたが、大いに盛り上がりしました。

これからも多くの方々へ、森林・林業の魅力を、地元の皆様と共に伝えてまいります。



写真左  
建物内には、「サテライト施設 第1号」と記載された額が掲げられています。

写真右  
建物の中央には「シンボルツリー」があり、滑り台などで遊ぶことができます。



岐阜県では、森林に誇りと愛着を持ち、地域の将来を担っていく人を育てていくことを目指すための考え方を「ぎふ木育ビジョン」としてまとめ、「ぎふ木育」を体験できる場所の整備を進めました。令和2年、岐阜市内に「ぎふ木遊館」が開館し、より多くの県民が体験できるようサテライト施設の設置を進め、その第1号として「道の駅花街道付知」の一部を改修して「なかつがわ 森の木遊館」が完成しました(10ページでも紹介)。

シリーズ

# 「私の森語り」

もりかた

森林・林業との関わりの中で、  
様々な課題に挑戦されている方  
の取組を紹介します。

「木のぬくもりを感じる

中津川市ひと・まちテラス」



中津川市  
ひと・まちテラス所長  
安藤 嘉之

## 自己紹介

岐阜県中津川市にある「ひと・まちテラス」の所長をしています。

「ひと・まちテラス」は、かつて中山道中津川宿として栄えたこの地なかせんどう

に、再び賑わいをもたらそうと、「ひと・まち・未来を元気にする交流と

学びとにぎわいの拠点」を基本理念とし、「子育て支援」「市民交流」「学び

「観光」の機能を備えた複合施設です。

## 活動内容

多くの方に親しみを感ずる利用



ひと・まちテラスの外観

していただくため、「木のぬくもり

が感じられる施設にしよう」ということになりました。

そのためには、建物全体を木造建築にするのが一番いいのですが、まちなかの防火地域内であり、二階、三階の一部が図書館で

十七万冊の蔵書があることなどから、火事に強く、ある程度の重量にも耐えられる鉄筋コンクリートにする必要があります。そこで、建物内部に

ふんだんに木を散りばめることにしました。一階天井には格子状に組んだ中津川産のヒノキが使っており、

三階にも入口を作る関係上、天井の位置は高く取れません。そこで

ヒノキを格子状に組み、取って天井裏まで見せることで、建物に入った

ときに圧迫感がないようにしました。中津川市は、昔から森林文化が盛ん

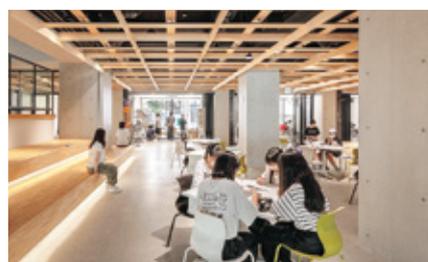
で、現在も良質な木材や木製品を生産・加工する人たちが多くいます。

「東濃ヒノキ」としても知られる市内のヒノキを使うことで、「他にはない、

中津川市の建物」という主張も入れました。

一階から三階に続く階段は、クリを使用しています。中津川市は「栗きんとん」をはじめとする栗菓子で有名

ですが、「栗は食べるだけでなく建築にも使えます」という意味が込められています。



ヒノキを格子状に組んだ「見せる」天井

また、お客様の手に直接触れる、階段の手すり、部屋の出入口の取っ手などには、木曾五木きそごご(ヒノキ、サワラ、アスナロ、ネズコ、コウヤマキ)が使われています。それらには、お客様がよく見なければわからない場所に、使用した木の名前がこっそりと記されています。

ソフト面でも、木や森林に関するイベントを行っており、一つは、「木のことを知る」というテーマで行うトークイベントです。毎回木や森林を生業にしている方をゲストに招き、

木との出会い、木に携わる仕事の苦勞と喜び、木や森林の未来などについて語っていただき、YouTubeで発信しています。また、それを積み重ねていき、ゲストの方の想いや願い

をアーカイブとして保存していくことも行っています。もう一つが、木育のワークショップ

です。マイ箸づくり、桶作り、ヒノキボールすくい、木を使った昆虫標本作りなどの体験ワークショップを定期的

に実施しています。昨年七月十五日にオープンしてから一年が過ぎ、九月十一日現在

五万三千四百七十四人の方にご利用いただいております。今後も「にぎわいの拠点」になるために、中山道の街道文化、市北部を中心とした森林文化を

大切にしながら、さらに多くのお客様にお越しいただけるよう創意工夫を重ねてまいります。

■連絡先

岐阜県中津川市新町二一三四  
中津川市ひと・まちテラス

をアーカイブとして保存していくことも行っています。

もう一つが、木育のワークショップです。マイ箸づくり、桶作り、

ヒノキボールすくい、木を使った昆虫標本作りなどの体験ワークショップを定期的

に実施しています。昨年七月十五日にオープンしてから一年が過ぎ、九月十一日現在

五万三千四百七十四人の方にご利用いただいております。今後も「にぎわいの拠点」になるために、中山道の街道文化、市北部を中心とした森林文化を

大切にしながら、さらに多くのお客様にお越しいただけるよう創意工夫を重ねてまいります。

■連絡先

岐阜県中津川市新町二一三四  
中津川市ひと・まちテラス



ヒノキボールすくいに挑戦する子ども



# 管内北限の天然ヒノキ林

かしま  
鹿島ヒノキ等遺伝資源希少個体群保護林

## 設定目的

本保護林は、古くは木曾地方の天然ヒノキ、いわゆる木曾ヒノキの分布帯に連続していたものと考えられている。管内北限の天然ヒノキ林として希少な森林であることから、その遺伝資源の保護を目的として設定しています。

## 地況・林況

長野県大町市を流れる鹿島川左岸、標高一、二五〇級の尾根筋周辺の西斜面に位置しています。

分布するヒノキは、江戸時代後期に伐採した後に天然更新により再生したものと考えられています。ヒノキを主体とし、クロベ（ネズコ）やミズナラ、ブナ等が混交する、多雪地帯に特徴的な天然林が分布しています。

シリーズ

中部の保護林(第41回)

所在地  
長野県大町市



国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年（大正4年）以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。

お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイヤルイン：026-236-2612



※詳細は、コードを読み込んでください。

シリーズ

秘蔵写真

# 今は昔の林業

第41回

中部森林管理局総務課

井上 日呂登

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともにご紹介します。

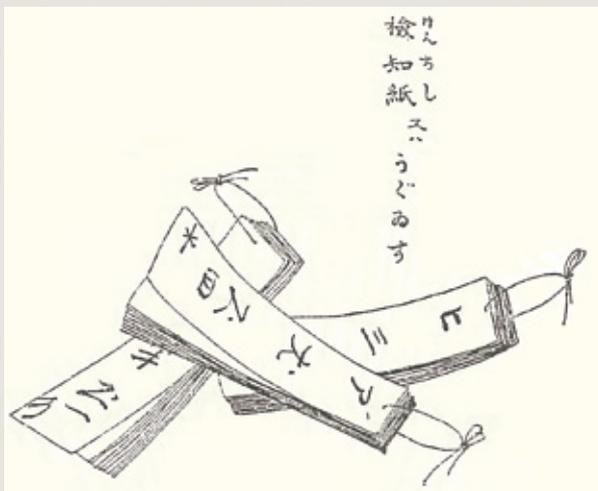
## 「裏木曾」その五 造材と検尺

伐採された木を丸太に加工するのが「造材」ですが、斧で伐採していた頃の木曾・裏木曾では木の皮を剥き丸太の両端を斧で削り丸め



昭和20年代頃、現在の東濃森林管理署付知裏木曾国有林での造材の様子

ることがしばしば行われました。この「すりこぎ」状に丸められた部分を「頭巾」と呼びます。これは斜面をおろす・川に流すなどの運材の際の木材の割れを軽減するためであったとされます。ただし、それだけ木材として使える部分が減る訳ですから、後の時代には行われなくなりました。皮も時代や樹種によって剥かない場合があります。



検知を記録する紙はうぐいす・ウグイス帳などとも呼ばれた(大正5年帝室林野管理局発行「木曾御料林之造材運材」より)

造材された丸太はその本数、樹種、寸法等を確認・記録するため検尺(検知)を受けるこ

とになります。検尺は代人(旦那)と呼ばれるまとめ役・指導員を中心に行います。伐木造材した出来高で賃金が左右された時代でしたので検尺は厳格さを要求されるものでした。

検尺の際には代人と「驚採り」とも呼ばれる記帳役、実際にその山で作業した柚(伐採夫)数人が立会います。代人が丸太を一本ごとに調べるたびに大きな声で呼び上げ、これを記帳役が復唱し「うぐいす」とも呼ばれた検知紙に記帳します。この大きな声で呼び上げ、復唱する声は山々にこだまする検尺の風景から「うぐいす」という言葉が出てきたとも言われています。



切判を掘るノミの時代による変遷(「付知川に於ける材木伐出の沿革と絵解」より)

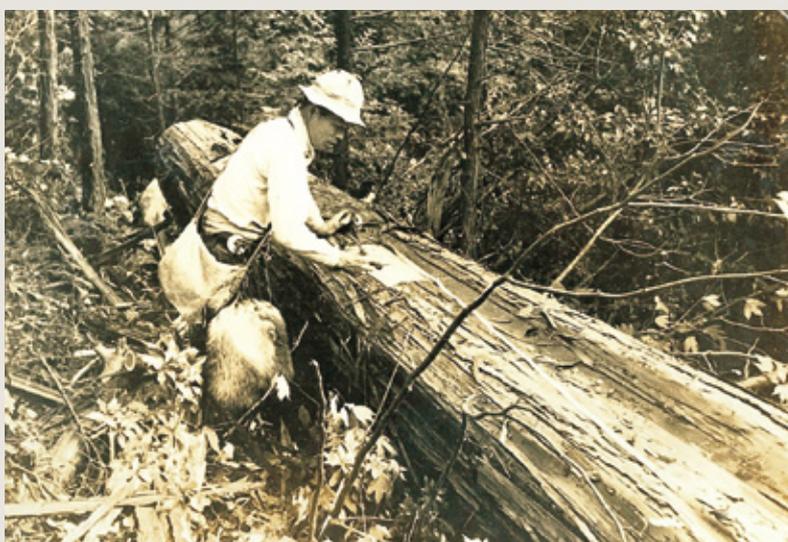
大正時代初期頃の裏木曾での検尺のイメージ  
（付知川に於ける材木伐出の沿革と繪解「より」）



また検尺の際には「切判」と呼ばれる記号がノミで刻まれ、墨を入れられます。これはバラバラに川に流されるなどした後でも、いつでもどこから出材された丸太であるのか判別できるようにするためのものです。切判で刻まれるのは伐採した事業所、伐採年度、樹種、杣看板（どの杣の組が伐採したのかの印）といっ

た情報になります。例えば「クナ」は宮内省帝室林野管理局の付知（中津川）出張所の木材であること、「ヒ」はヒノキ、「二」は大正二年の伐採であることを示しています。切判は江戸時代からある慣習でしたが、時代が経つに連れてインクを付けたハンマーで刻印を打つなどの作業に変わっていきます。

現代でも神宮（伊勢）の式年遷宮関連行事などにおいて、切判の流れをくむ印が御神木に刻まれることがあります。



昭和20年代頃、現在の東濃森林管理署付知裏木曾国有林にて切判を刻む風景

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかししの写真を紹介するサイトです。  
当サイトへは、コードを読み込んでください。



シリーズ

# 森林官からの便り

国有林の現場の最前線で、働く森林官の仕事や、管轄する地域の特徴などを紹介します。

## 【東濃森林管理署

### 岩村森林事務所

首席森林官 安藤 達也

岩村森林事務所は岐阜県恵那市の南東に位置する岩村町に在し、森林官、非常勤職員各一



日本三大山城の一つ 岩村城跡



岩村町内を走行する競技用車両

名で業務にあたっています。恵那市、瑞浪市内の国有林約五、〇三〇ヘクタールと、上矢作町、瑞浪市、多治見市、御嵩町内にある官行造林地約二九九ヘクタールを管轄しており、里山から奥山まで広範囲に

及んでいます。

近隣には女城主の城として知られ、日本三大山城の一つと言われる「岩村城跡」があり、麓の城下町と共に毎年多くの観光客が訪れています。一昨年からは、FIA世界ラリー選手権WRCが愛知県豊田市と共に開催されており、世界の注目を集める地域でもあります。

当事務所ではこの時期、木材生産や植栽後の保育事業の監督、民有地との境界の確認、森林の調査などの各種業務で現場へ向かう日が続いています。

近年は主伐に伴う新植地が増えており、ニホンジカの生息数も増加していることから、獣害対策の検討や既設の防護柵の修繕も課題となっています。

管内の特筆すべき点としては、「真砂土」と呼ばれるもろく崩れやすい地質であることです。この地質を考慮したうえで、伐採とそれに伴う林道や作業道の利

用、植栽後の獣害対策用防護柵の設置などを進める必要があります。各現場に適した作業方法を模索する毎日です。



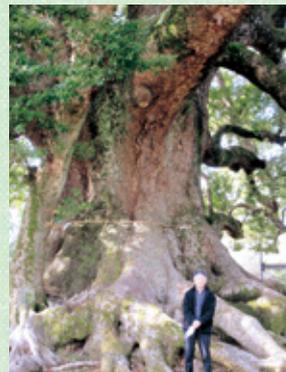
獣害防護柵を修理する職員

### ■未来の担い手へのメッセージ

近年は林業分野でも新しい技術の開発やIT化が進んでいますが、国有林への導入は一部にとどまっています。これからの新しい力で国民の森を整備し、守ってみませんか。



### 国有林モニターのご紹介



北村 憲一  
(長野県)

#### ◇自己PR(趣味・その他)

全国の巨樹巡りなど。

農業は一年で成果が得られるのに対し、林業は、「おじいさんのおかげで今があり、孫のために植林する」という長いスパンです。この言葉をときどき噛みしめながら農業で汗を流し、土を耕す日々です。

#### ◇国有林モニターに応募した理由

長野県では、戦後、カラマツは成長が早く、土木用材としての需要が見込まれていたため、各地で盛んに植林されましたが、昭和五十年代に入ると、大量に間伐されたカラマツの利用が課題となりました。

当時、間伐材の使い道の検討に関わったことがありましたが、間伐したカラマツの小径材は、植林した当時には想定されていなかったヤニや割れ、ねじれが生じ、建築用材としては対応に苦慮したものでした。

そのカラマツが主伐の時期を迎えており、再び関心を持ちました。

#### ◇国有林に期待すること

車で旅行をしていると、雑木林にポツンとある山桜に「ああ、山桜哉かな」と思わずつぶやいてしましますが、一方で、手入れの行き届いた人工林の姿にも心を落ち着かせるものがあります。また、京都の北山杉や秋田の杉などの佇まいに出会ったときは、思いがけない旅行の喜びを感じることもあります。

国有林で行われる造林や保育作業なども、素晴らしい景観づくりに寄与してくれればいいなと思っております。

(写真：熊本市「寂心じやくしんさんの樟くすのぎ」にて)

### 「なかつがわ森の木遊館」

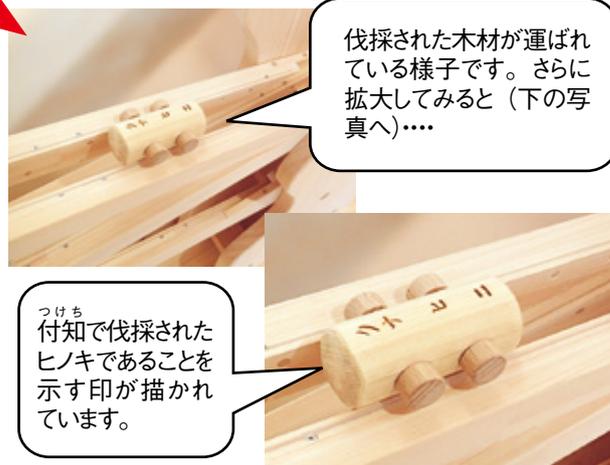
4ページで紹介した「なかつがわ森の木遊館」は、内装に市内で伐採されたスギやヒノキが使われています。施設内には「かつて裏木曾の山から木材を運び出していた森林鉄道」をイメージした地域色豊かなおもちゃもあります(左写真)。

また、市独自の森林文化や暮らしなどのテーマごとにエリアが分けられていて、子どもから大人まで幅広い年代の方が木に触れ、親しむことができる施設となっています。



よく見ると何が乗っています。(右下へ)

伐採された木材が運ばれている様子です。さらに拡大してみると(下の写真へ)...



つけち付知で伐採されたヒノキであることを示す印が描かれています。

### 編集長だより

(中部の森林へのご意見・ご要望等の投稿は、[migoro@maff.go.jp](mailto:migoro@maff.go.jp)まで電子メールでお送りください。)

♪夕焼け 小焼けの赤とんぼ〜♪秋の高く澄み切った青空、黄金色の稲穂が風に揺れる田んぼ、その周りを縁どるように畔に咲く彼岸花、稲穂の上を飛び交う多くの赤とんぼ。

まさに「日本の原風景」と勝手に思っていますが、実際に子どもの頃から見ていた景色です。赤くなっていないオレンジ色のとんぼを祖母は「まだ熟れてない」と表現しました。

夏の期間、標高の高い場所で過ごすアキアカネは、涼しくなる頃に赤みを増して一斉に里まで降りてくるようですが、今年はいつになるでしょう。みなさまはすでに出会いましたか。群れを成して飛ぶ「熟れたとんぼ」に。

中部森林管理局のホームページ等へのアクセスは、以下を読み込んでください。



中部森林管理局  
ホームページ

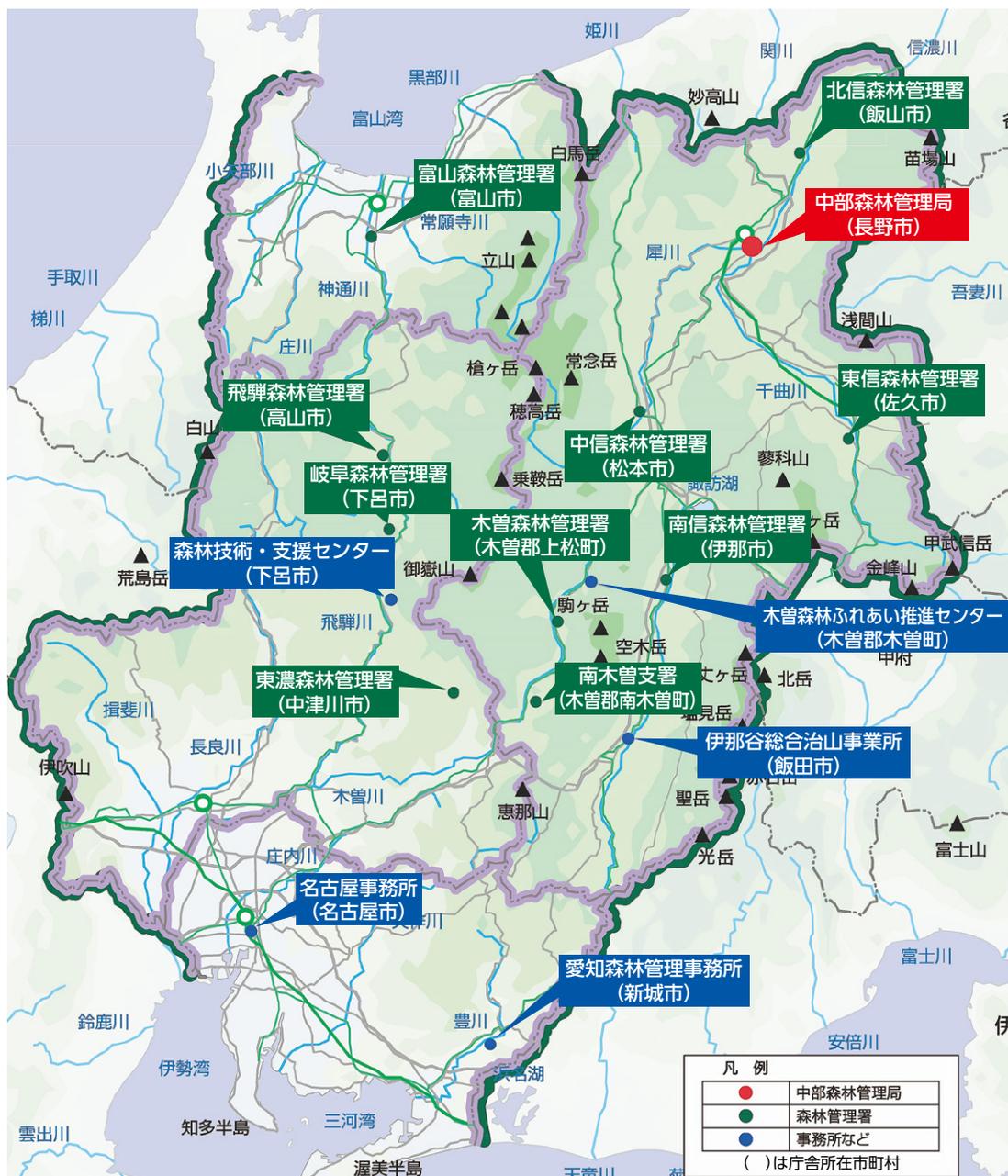


広報  
「中部の森林」



用語の解説

本誌文中に掲載している主な専門用語・業界用語を解説。



名古屋事務所	〒456-8620	愛知県名古屋市中区熱田区熱田西町1-20	TEL 050-3160-6660	c_nagoya@maff.go.jp
富山森林管理署	〒939-8214	富山県富山市黒崎字塚田割591-2	TEL 050-3160-6080	c_toyama@maff.go.jp
北信森林管理署	〒389-2253	長野県飯山市大字飯山1090-1	TEL 050-3160-6045	c_hokushin@maff.go.jp
中信森林管理署	〒390-0852	長野県松本市島立1256-1	TEL 050-3160-6050	c_chushin@maff.go.jp
東信森林管理署	〒384-0301	長野県佐久市白田1822	TEL 050-3160-6055	c_tohshin@maff.go.jp
南信森林管理署	〒396-0023	長野県伊那市山寺1499-1	TEL 050-3160-6060	c_nanshin@maff.go.jp
木曽森林管理署	〒399-5604	長野県木曽郡上松町正島町1-4-1	TEL 050-3160-6065	c_kiso@maff.go.jp
南木曽支署	〒399-5301	長野県木曽郡南木曽町読書3650-2	TEL 050-3160-6070	c_nagiso@maff.go.jp
飛騨森林管理署	〒506-0031	岐阜県高山市西之一色町3丁目747-3	TEL 050-3160-6085	c_hida@maff.go.jp
岐阜森林管理署	〒509-3106	岐阜県下呂市小坂町大島1643-2	TEL 050-3160-6090	c_gifu@maff.go.jp
東濃森林管理署	〒508-0351	岐阜県中津川市付知町8577-4	TEL 050-3160-5675	c_tohno@maff.go.jp
愛知森林管理事務所	〒441-1331	愛知県新城市庭野字東萩野49-2	TEL 0536-22-1101	c_aichi@maff.go.jp
森林技術・支援センター	〒509-2202	岐阜県下呂市森876-1	TEL 050-3160-6095	c_gijutsus@maff.go.jp
木曽森林ふれあい推進センター	〒397-0001	長野県木曽郡木曽町福島5473-8	TEL 0264-22-2122	kiso-fureai@maff.go.jp
伊那谷総合治山事業所	〒395-0001	長野県飯田市座光寺5152-1	TEL 050-3160-6075	

発行：林野庁 中部森林管理局  
編集：総務課 広報  
〒380-8575 長野県長野市栗田715-5  
電話：026-236-2531  
Mail：migoro@maff.go.jp  
http://rinya.maff.go.jp/chubu/

メールマガジンに登録いただくと、広報「中部の森林」を発行日と同時にデジタル版を毎月配信します。  
(毎月10日発行※編集の都合で、発行日が遅れることもあります)  
登録サイト <https://mailmag.maff.go.jp/m/entry>



本誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。